

2019 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

東京大学地震研究所

博士課程 1 年 川野由貴

日本地震学会より海外渡航旅費助成をいただき、2019 年 12 月 9 日から 12 月 13 日にかけて米国サンフランシスコで行われた AGU Fall Meeting 2019 に参加させていただきましたので、その成果をご報告いたします。

AGU Fall Meeting については、多くの方からその規模が如何に大きいものなのかを聞いていたため、私にとってはずっと憧れの学会でした。今回初めて参加し、何故みんなが口を揃えてその規模の大きさを一番に語るのか納得することができました。全 5 日間のうち、ほとんど全ての時間帯で聞きたい発表がいくつも重複していたり、ポスター会場には 1 日におよそ 3500 枚以上の発表があったりと、その賑わいは想像をはるかに上回るものでした。

大会初日の”Structure and Evolution of the Oceanic Lithosphere and Mantle II”

というセッションで、私は”Array analysis of OBS recordings at Ontong Java Plateau: Preliminary analysis via seismic interferometry”というタイトルでポスター発表を行いました。史上最大規模の火成活動の結果形成された海台直上での海底地震計データに、地震波干渉法を適用し、位相速度計測を行い、地震波速度の水平不均質を求める、という内容です。解析で得られた相互相関関数からは、構造推定という本来の目的とは直接関係のない、周期 25 秒に卓越した波束（25 秒シグナル）も観測されており、発表は位相速度計測と 25 秒シグナルの 2 本立てとなりました。

自身のポスター発表ではコアタイムを 2 時間に設定していましたが、慣れてくると解説・議論を楽しめるようになり、結局 3 時間以上ポスター発表を行いました。発表を聞いてくださった多くの方が研究を前向きに捉えてくださり、今後の研究のモチベーションにつながりました。また人によっては手法の詳細についても議論してくださりました。質問に適切に答えることが難しく、自身の勉強不足を反省すると同時に、まだまだできること、やるべきことが沢山残されていると痛感しました。

自分の発表時間以外は、自身の研究との関連性を重視しつつ、興味の赴くままに様々な発表を聞きました。火山学分野のポスターセッションでは、背景知識をほとんど持たない私の初歩的な質問にも、みなさん親切に答えてくださりました。また私の修士論文の土台となった論文の著者と議論をする場を持つことができました。ポスター発表の合間を縫って質問に答えてくださったり、適切な参考文献を教えてくださったりと、大変有意義な時間を過ごすことができました。

ところで私は2018年4月に、米国の地震計設置航海に参加しました。それらのデータは2019年5月に回収されており、すでに解析が始まっていました。自身が設置に携わったデータによる解析結果を聞くのは感慨深いものがありました。そして、滅多に会えない設置航海での友人達とも再会し、お互いの研究を議論するだけでなく、近況についても楽しく報告し合うことができました。

最後になりましたが、この度日本地震学会の助成金を受け、AGU Fall Meetingに参加することができました。大会初日は、発表もあり、初めての海外学会とい

うこともあり、国内学会よりも疲労を感じていましたが、振り返るとあっという間の 5 日間でした。日本地震学会および関係者の皆様には、このような貴重な体験をさせていただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。